

愛知県漂着ごみ組成調査結果

1 令和4年度調査結果

1-1 伊勢湾小鈴谷周辺地点での調査結果

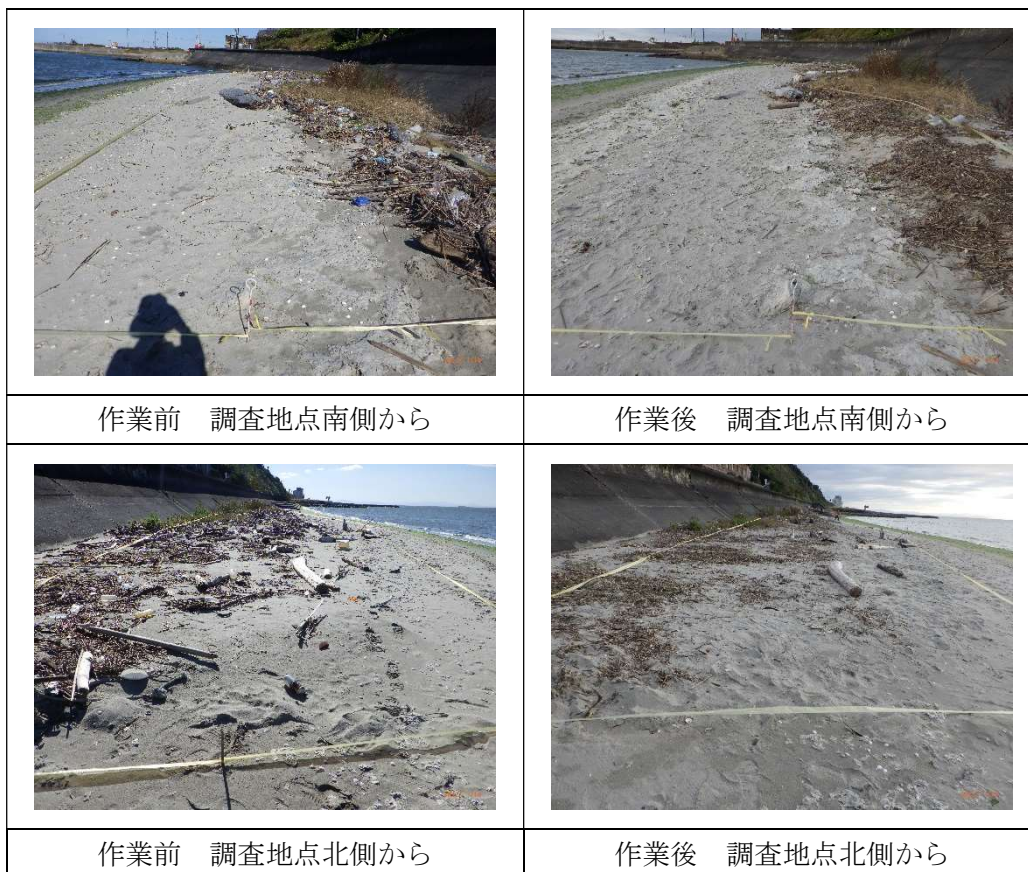
伊勢湾小鈴谷周辺地点の位置、漂着ごみの状況は以下のとおり。

回収された漂着ごみは、重量 1,725.49kg、容量 7,634.8L、個数 925 個であった。自然物と人工物の組成は、重量、容量では自然物がそれぞれ 95.6%、92.4%、個数では人工物が 89.8%と多かった。自然物の小分類別では、重量、容量にて流木が多かった。

人工物の大分類別の組成は、重量、容量、個数において、プラスチックがそれぞれ 55.2%、73.9%、85.3%で最も多かった。



調査地点位置



伊勢湾小鈴谷周辺地点の漂着ごみの状況
(2022年11月14日撮影 常滑市小鈴谷海岸)

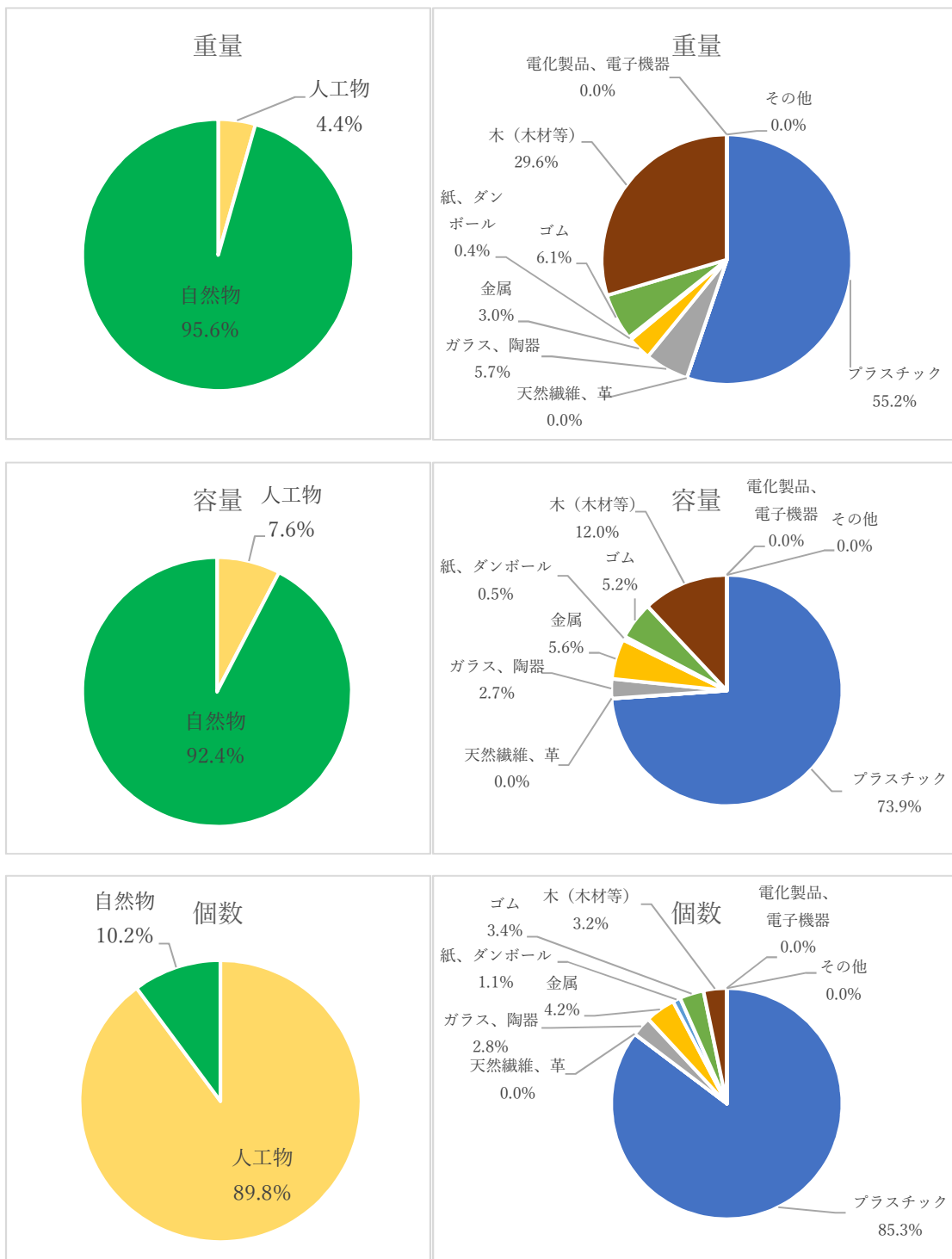


伊勢湾小鈴谷周辺地点の漂着ごみの状況
(2022年11月15日撮影 常滑市小鈴谷海岸)

2分類別の組成 (上段) と人工物の大分類別の組成 (下段)

項目	重量 (kg)	容量 (L)	個数 (個)
人工物	76.47	582.3	831
自然物	1,649.02	7,052.5	94
合計	1,725.49	7,634.8	925

項目	重量 (kg)	容量 (L)	個数 (個)
プラスチック	42.21	430.3	709
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	4.35	15.8	23
金属	2.33	32.7	35
紙・段ボール	0.29	3.0	9
ゴム	4.64	30.5	28
木 (木材等)	22.65	70.0	27
電化製品・電子機器	0.00	0.0	0
その他	0.00	0.0	0
人工物合計	76.47	582.3	831



2分類別の組成比（左図）と人工物の大分類別の組成比（右図）
 （注：端数処理の関係で合計が100%にならない。以降の図表も同様。）

プラスチック（発砲スチロールを含む。）の容器包装等の組成は、重量、容量、個数ともに、容器包装がそれぞれ72.8%、71.1%、66.4%で最も多かった。

プラスチック組成詳細の分類では、重量、容量、個数で飲料用ボトルが最も多い結果であった。

プラスチックの容器包装等の組成

分類	重量 (kg)	重量 (%)	容量 (L)	容量 (%)	個数 (個)	個数 (%)
容器包装	30.72	72.8%	305.8	71.1%	471	66.4%
海域由来	1.58	3.7%	13.9	3.2%	89	12.6%
製品	1.32	3.1%	3.8	0.9%	111	15.7%
その他	8.59	20.4%	106.8	24.8%	38	5.4%
合計	42.21	100%	430.3	100%	709	100%

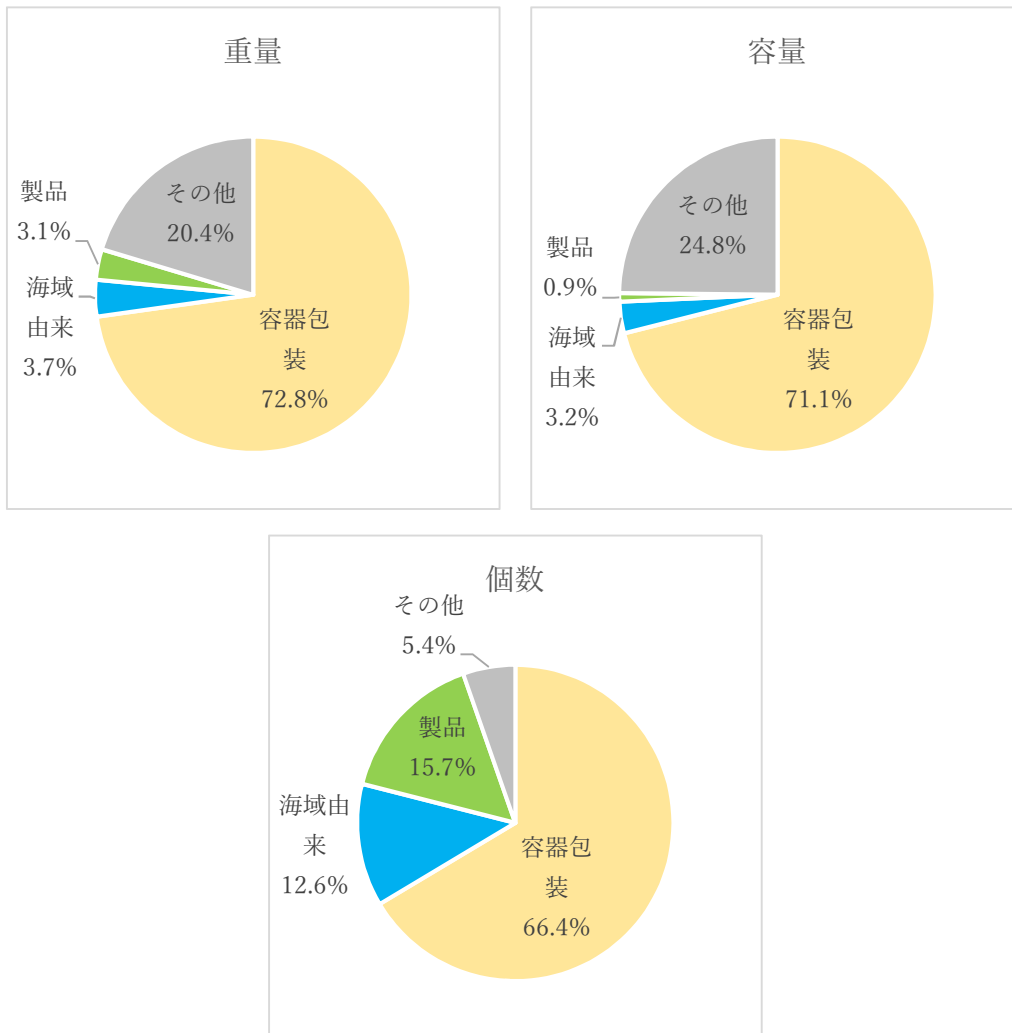
プラスチック組成詳細

分類	重量 (kg)	容量 (L)	個数 (個)
飲料用ボトル	25.57	205.5	215
その他プラボトル類	3.78	35.0	44
容器類 ※1	1.17	59.5	159
ポリ袋	0.44	7.3	67
漁網、ロープ	0.76	1.3	14
ブイ	0.30	0.8	19
発砲スチロールブイ	0.06	0.5	3
その他漁具	0.46	11.3	53
カトラリー ※2	0.02	0.0	14
その他プラスチック ※3	9.65	109.1	121
合計	42.21	430.3	709

※1 調味料容器、トレイ、カップ等

※2 ストロー、フォーク、スプーン、ナイフ、マドラー

※3 ライター、注射器、発砲スチロール片等



プラスチックの容器包装等の組成比

ペットボトル等の製造国の特定結果は以下のとおり。

製造国が特定できたペットボトルでは日本が 69 個、ペットボトルのキャップでは日本のものが 32 個、漁業用の浮子では中国・台湾が 4 個で多くみられた。

製造国の特定結果 (個)

	ペットボトル	ペットボトルのキャップ	漁業用の浮子
日本	69	32	0
中国・台湾	1	1	4
韓国	0	0	1
不明	44	18	17
合計	114	51	22

1-2 三河湾形原周辺地点での調査結果

三河湾形原周辺地点の位置、漂着ごみの状況は以下のとおり。

回収された漂着ごみは、重量 94.56kg、容量 1,971.2L、個数 71 個であった。自然物と人工物の組成は、重量、容量では自然物がそれぞれ 97.4%、99.2%で、個数では人工物が 98.6%と多かった。

自然物の小分類別では、重量、容量ともに灌木が多かった。

人工物の大分類別の組成では、重量、容量において、木（木材）がそれぞれ 80.2%、90.1%と最も多く、個数ではプラスチックが 78.6%と最も多かった。



調査地点位置

	
調査前 調査地点西側から	調査後 調査地点西側から
	
調査前 調査地点東側から	調査後 調査地点東側から

三河湾形原周辺地点の漂着ごみの状況
(2022年11月16日撮影 蒲郡市春日浦海岸)

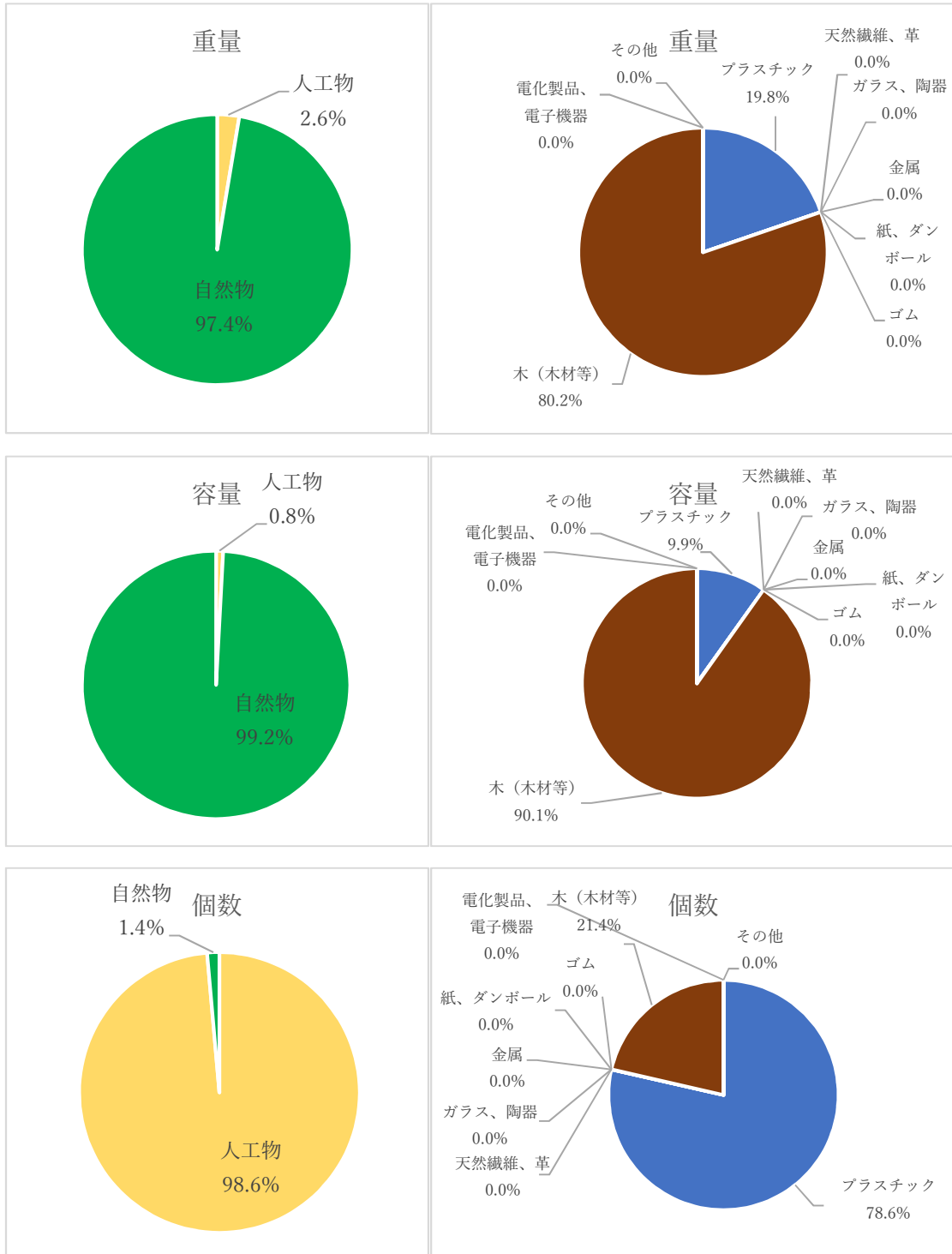
	
特徴的な漂着ごみ (灌木)	特徴的な漂着ごみ (食品容器 (発泡スチロール))
	
特徴的な漂着ごみ (食品の容器包装)	特徴的な漂着ごみ (木材(物流用パレット、木炭等含む))

三河湾形原周辺地点の漂着ごみの状況
(2022年11月16日撮影 蒲郡市春日浦海岸)

2分類別の組成 (上段) と人工物の大分類別の組成 (下段)

項目	重量 (kg)	容量 (L)	個数 (個)
人工物	2.48	16.6	70
自然物	92.08	1,954.6	1
合計	94.56	1,971.2	71

項目	重量 (kg)	容量 (L)	個数 (個)
プラスチック	0.49	1.6	55
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.00	0.0	0
金属	0.00	0.0	0
紙・段ボール	0.00	0.0	0
ゴム	0.00	0.0	0
木 (木材等)	1.99	15.0	15
電化製品・電子機器	0.00	0.0	0
その他	0.00	0.0	0
人工物合計	2.48	16.6	70



2分類別の組成比（左図）と人工物の大分類別の組成比（右図）

プラスチック（発砲スチロールを含む。）の容器包装等の組成は、重量、容量、個数ともに、容器包装がそれぞれ 49.0%、39.6%、67.3%で最も多かった。

プラスチック組成詳細の分類では、重量、容量、個数で容器類が最も多かった。

プラスチックの容器包装等の組成

分類	重量 (kg)	重量 (%)	容量 (L)	容量 (%)	個数 (個)	個数 (%)
容器包装	0.24	49.0%	0.7	39.6%	37	67.3%
海域由来	0.03	6.1%	0.1	6.7%	3	5.5%
製品	0.03	6.1%	0.2	11.0%	9	16.4%
その他	0.19	38.8%	0.7	42.7%	6	10.9%
合計	0.49	100%	1.6	100%	55	100%

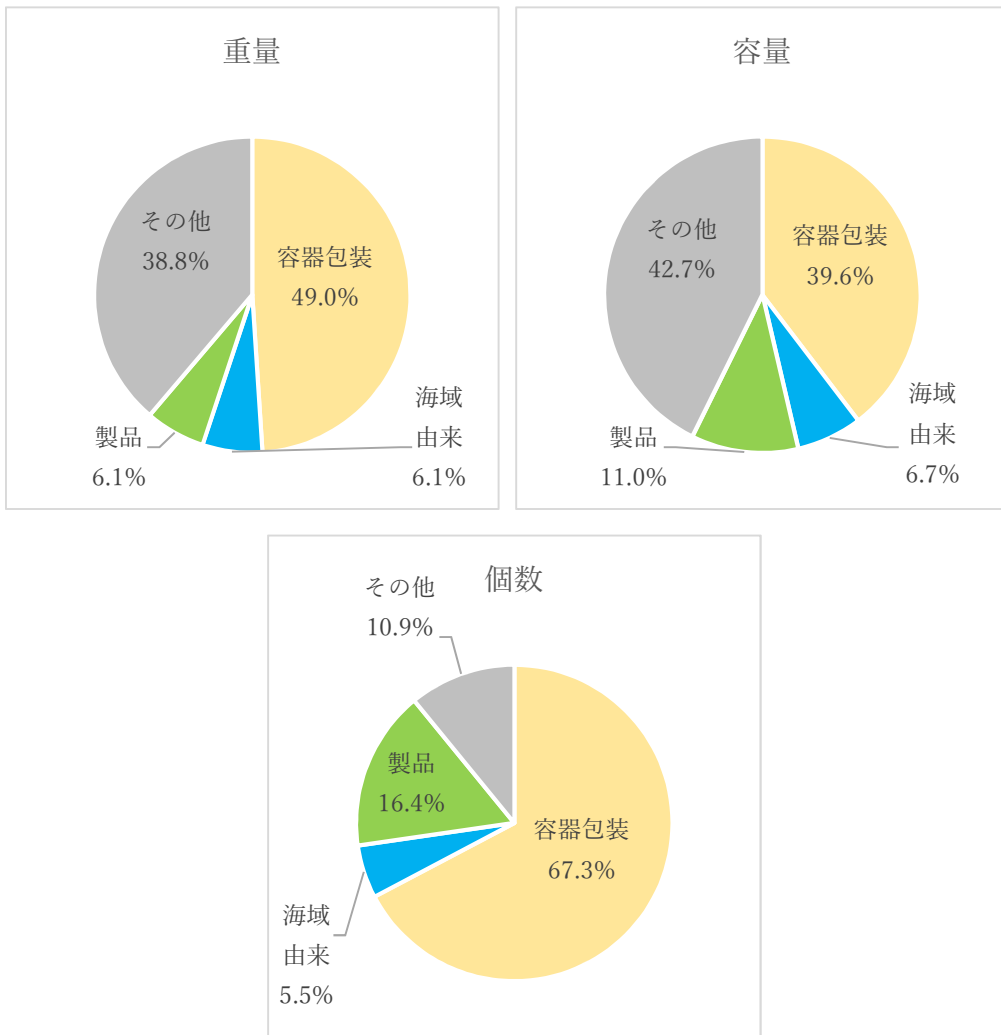
プラスチック組成詳細

分類	重量 (kg)	容量 (L)	個数 (個)
飲料用ボトル	0.01	0.1	3
その他プラボトル類	0.00	0.0	0
容器類 ※1	0.23	0.4	22
ポリ袋	0.00	0.1	10
漁網、ロープ	0.02	0.1	2
ブイ	0.00	0.0	0
発砲スチロールブイ	0.00	0.0	0
その他漁具	0.01	0.0	1
カトラリー ※2	0.00	0.0	2
その他プラスチック ※3	0.22	1.0	15
合計	0.49	1.6	55

※1 調味料容器、トレイ、カップ等

※2 ストロー、フォーク、スプーン、ナイフ、マドラー

※3 ライター、注射器、発砲スチロール片等



プラスチックの容器包装等の組成比

ペットボトル等の製造国の特定結果は以下のとおり。

本調査にて確認されたペットボトルのキャップのなかで製造国が特定できたのは、日本のペットボトルのキャップ2個であった。ペットボトル、漁業用の浮子は確認されなかった。

製造国の特定結果（個）

	ペットボトル	ペットボトルの キャップ	漁業用の浮子
日本	0	2	0
中国・台湾	0	0	0
韓国	0	0	0
不明	0	0	0
合計	0	2	0

1-3 遠州灘西七根周辺地点での調査結果

遠州灘西七根周辺地点の位置、漂着ごみの状況は以下のとおり。

回収された漂着ごみは、重量 389.85kg、容量 1,595.2L、個数 75 個であった。自然物と人工物の組成は、重量、容量では自然物がそれぞれ 99.8%、99.4%、個数では人工物が 53.3% と多かった。

自然物の小分類別では、重量では流木が、容量では灌木が多かった。

人工物の大分類別の組成は、重量、容量、個数ともに、プラスチックがそれぞれ 80.0%、75.9%、90.0% で最も多かった。



調査地点位置



遠州灘西七根周辺地点の漂着ごみの状況
(2022年12月22日撮影 豊橋市高塚海岸)

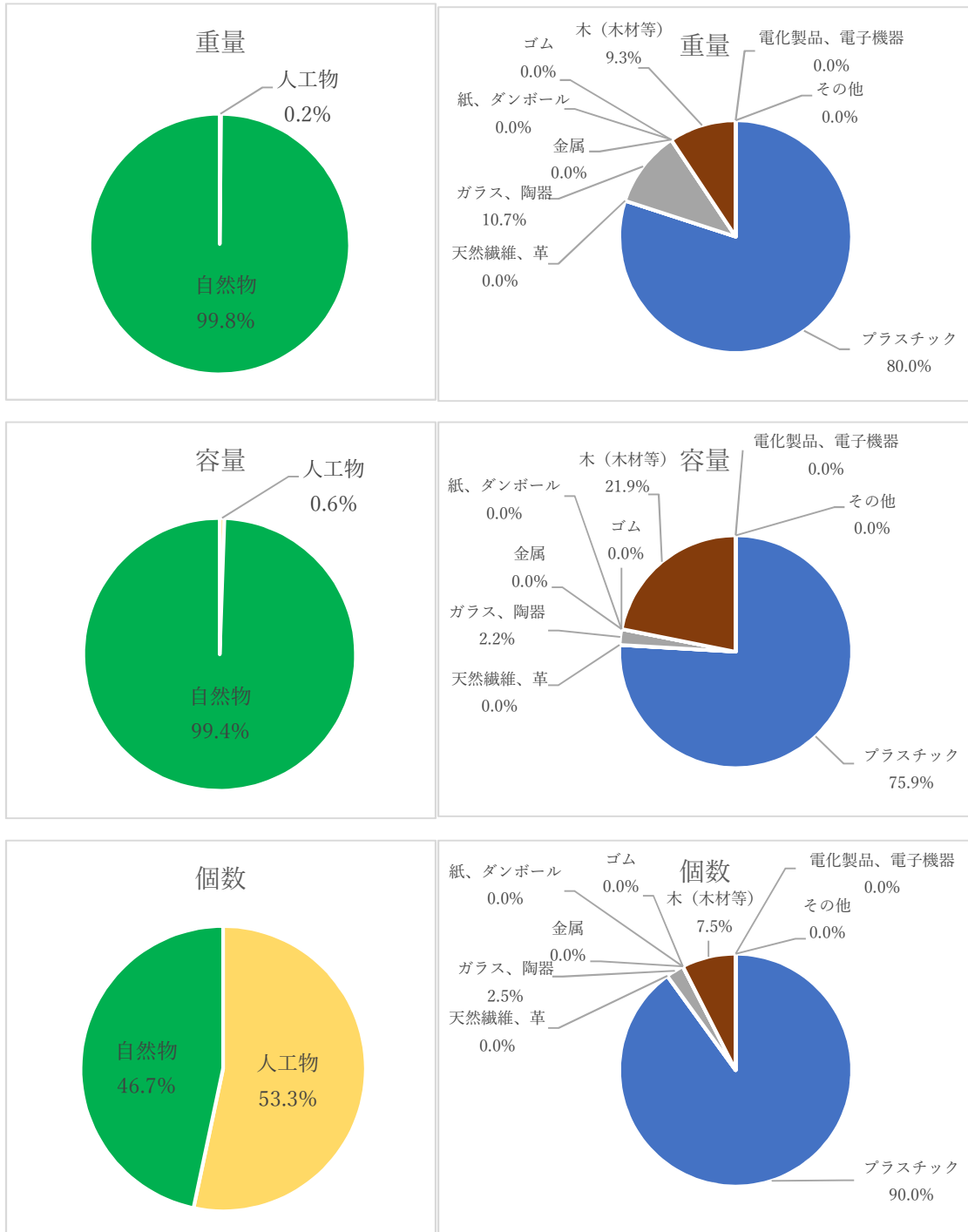
	
特徴的な漂着ごみ (流木)	特徴的な漂着ごみ (灌木)
	
特徴的な漂着ごみ (ロープ、ひも (漁具))	特徴的な漂着ごみ (ストロー)

遠州灘西七根周辺地点の漂着ごみの状況
(2022年12月22日撮影 豊橋市高塚海岸)

2分類別の組成 (上段) と人工物の大分類別の組成 (下段)

項目	重量 (kg)	容量 (L)	個数 (個)
人工物	0.75	9.1	40
自然物	389.10	1,586.1	35
合計	389.85	1,595.2	75

項目	重量 (kg)	容量 (L)	個数 (個)
プラスチック	0.60	6.9	36
天然繊維・革	0.00	0.0	0
ガラス・陶器	0.08	0.2	1
金属	0.00	0.0	0
紙・段ボール	0.00	0.0	0
ゴム	0.00	0.0	0
木 (木材等)	0.07	2.0	3
電化製品・電子機器	0.00	0.0	0
その他	0.00	0.0	0
人工物合計	0.75	9.1	40



2分類別の組成比（左図）と人工物の大分類別の組成比（右図）

プラスチック（発砲スチロールを含む。）の容器包装等の組成は、重量、容量、個数ともに、容器包装がそれぞれ 68.3%、72.0%、58.3%で最も多かった。

プラスチック組成詳細の分類では、重量、容量、個数で飲料用ボトルが最も多った。

プラスチックの容器包装等の組成

分類	重量 (kg)	重量 (%)	容量 (L)	容量 (%)	個数 (個)	個数 (%)
容器包装	0.41	68.3%	5.0	72.0%	21	58.3%
海域由来	0.08	13.3%	0.4	6.2%	4	11.1%
製品	0.06	10.0%	0.8	11.7%	11	30.6%
その他	0.05	8.3%	0.7	10.1%	0	0.0%
合計	0.60	100%	6.9	100%	36	100%

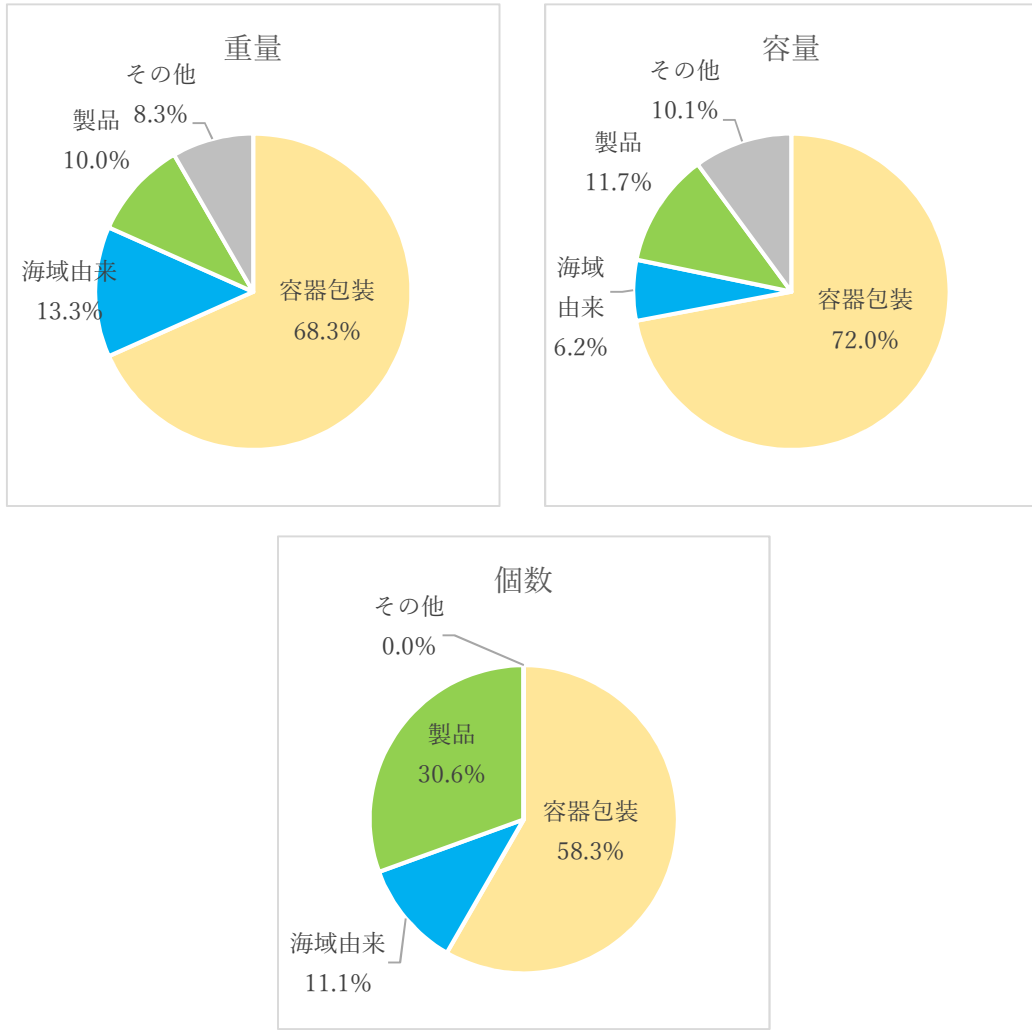
プラスチック組成詳細

分類	重量 (kg)	容量 (L)	個数 (個)
飲料用ボトル	0.34	4.2	9
その他プラボトル類	0.02	0.2	1
容器類 ※1	0.05	0.7	7
ポリ袋	0.03	0.3	5
漁網、ロープ	0.07	0.3	3
ブイ	0.00	0.0	0
発砲スチロールブイ	0.00	0.0	0
その他漁具	0.01	0.1	1
カトラリー ※2	0.00	0.2	7
その他プラスチック ※3	0.08	0.9	3
合計	0.60	6.9	36

※1 調味料容器、トレイ、カップ等

※2 ストロー、フォーク、スプーン、ナイフ、マドラー

※3 ライター、注射器、発砲スチロール片等



プラスチックの容器包装等の組成比

ペットボトル等の製造国の特定結果は以下のとおり。

製造国が特定できたものについて、ペットボトルでは、韓国が1個、ペットボトルのキャップでは、日本が1個であった。漁業用の浮子は、確認されなかった。



製造国の特定結果 (個)

	ペットボトル	ペットボトルの キャップ	漁業用の浮子
日本	0	1	0
韓国	1	0	0
不明	1	4	0
合計	2	5	0

2 調査結果の経年変化

2-1 伊勢湾小鈴谷周辺地点

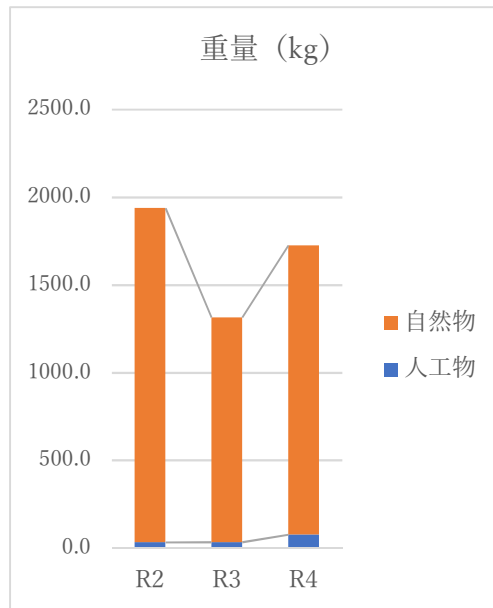
伊勢湾小鈴谷周辺地点の令和2年度～令和4年度の調査地点の回収前の様子は以下のとおり。

	
令和2年度 作業前 調査地点南側から (2020年12月14日撮影 常滑市小鈴谷海岸)	令和3年度 作業前 調査地点南側から (2021年11月10日撮影 常滑市小鈴谷海岸)
	
令和4年度 作業前 調査地点南側から (2022年11月14日撮影 常滑市小鈴谷海岸)	

伊勢湾小鈴谷周辺地点の漂着ごみの状況

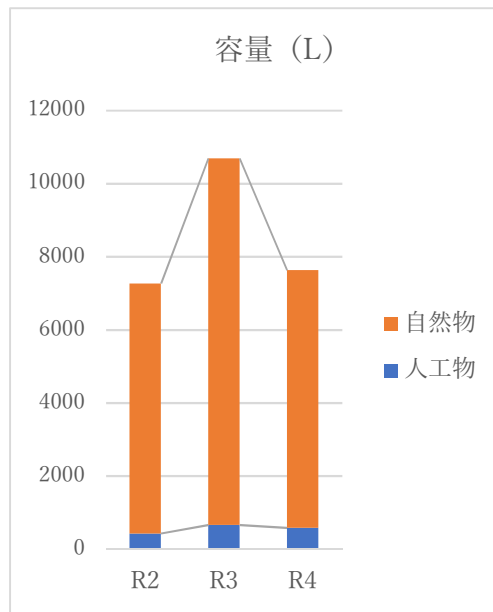
令和4年度の結果を過年度と比較すると、2分類別組成の人工物、自然物では、重量で令和4年度にて増加がみられ、容量、個数で減少がみられた。

人工物の大分類別の組成では、プラスチックが、重量、容量、個数において50%以上を占める傾向にあるが、令和2年度では重量、令和3年度では容量にてプラスチックが50%を下回る傾向がみられた。



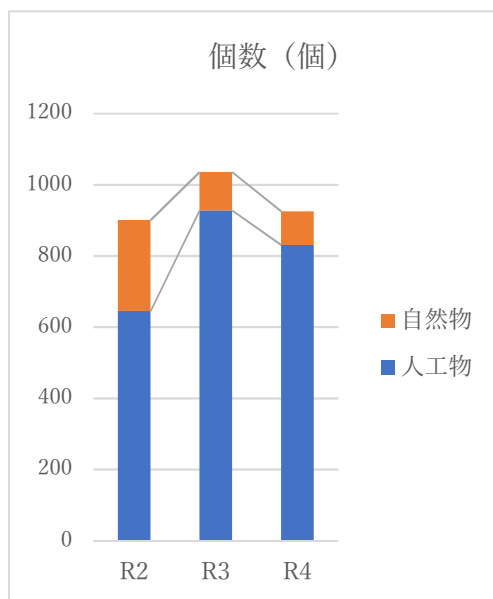
項目	重量 (kg)			重量 (%)		
	R2	R3	R4	R2	R3	R4
人工物	33.15	34.08	76.47	1.7	2.6	4.4
自然物	1,905.50	1,280.82	1,649.02	98.3	97.4	95.6
合計	1,938.65	1,314.90	1,725.49	100	100	100

2分類別の組成 (重量)



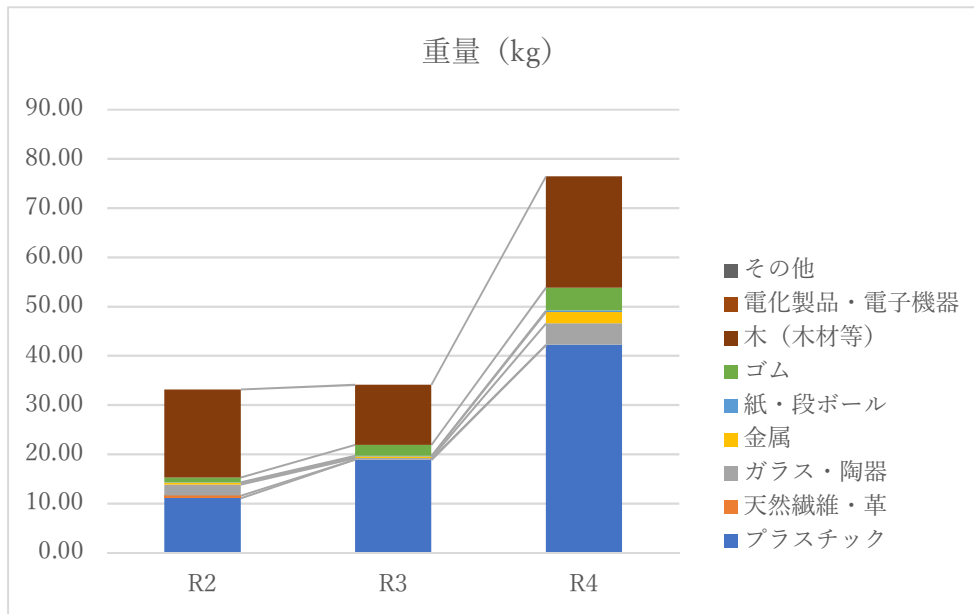
項目	容量 (L)			容量 (%)		
	R2	R3	R4	R2	R3	R4
人工物	428.0	660.4	582.3	5.9	6.2	7.6
自然物	6,840.4	10,032.3	7,052.5	94.1	93.8	92.4
合計	7,268.4	10,692.7	7,634.8	100	100	100

2分類別の組成 (容量)



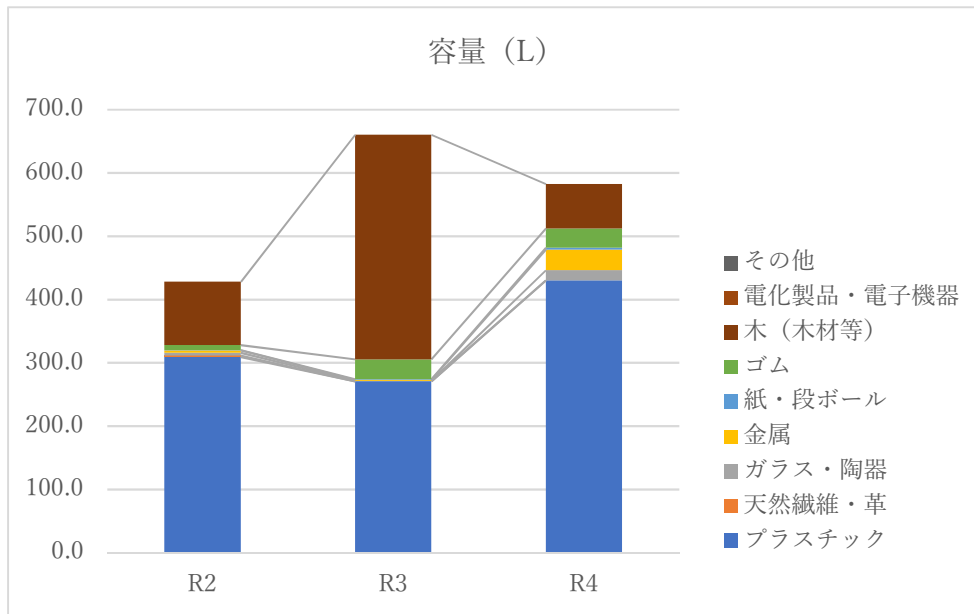
項目	個数 (個)			個数 (%)		
	R2	R3	R4	R2	R3	R4
人工物	645	928	831	71.6	89.6	89.8
自然物	256	108	94	28.4	10.4	10.2
合計	901	1,036	925	100	100	100

2分類別の組成 (個数)



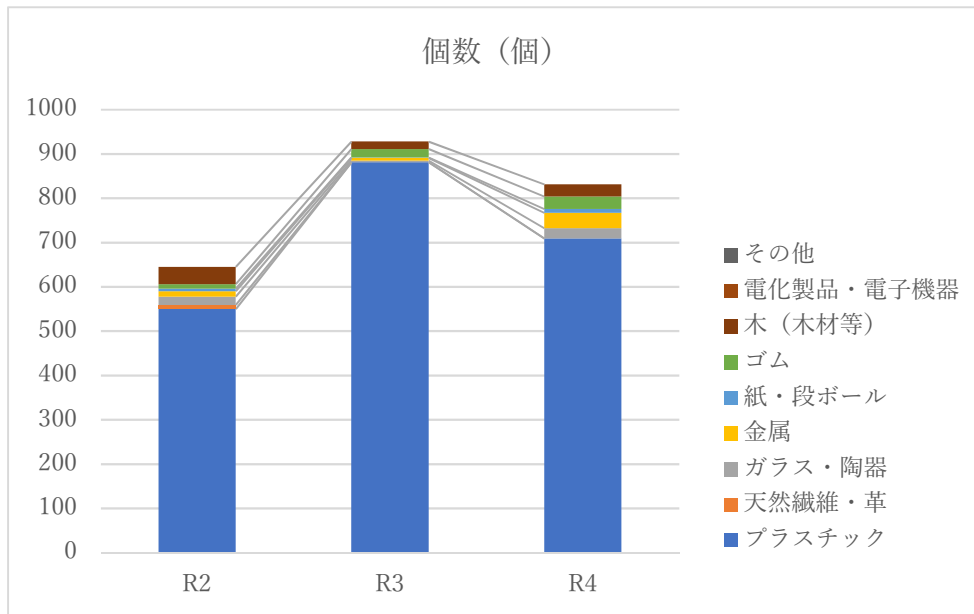
項目	重量 (kg)			重量 (%)		
	R2	R3	R4	R2	R3	R4
プラスチック	11.05	18.85	42.21	33.3	55.3	55.2
天然繊維・革	0.53	0.00	0.00	1.6	0.0	0.0
ガラス・陶器	2.24	0.37	4.35	6.7	1.1	5.7
金属	0.38	0.33	2.33	1.1	1.0	3.0
紙・段ボール	0.09	0.09	0.29	0.3	0.3	0.4
ゴム	0.97	2.26	4.64	2.9	6.6	6.1
木 (木材等)	17.90	12.18	22.65	54.0	35.7	29.6
電化製品・電子機器	0.00	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0
その他	0.00	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0
人工物合計	33.15	34.08	76.47	100	100	100

人工物の大分類別の組成 (重量)



項目	容量 (L)			容量 (%)		
	R2	R3	R4	R2	R3	R4
プラスチック	309.2	270.7	430.3	72.3	41.0	73.9
天然繊維・革	2.0	0.0	0.0	0.5	0.0	0.0
ガラス・陶器	4.6	0.7	15.8	1.1	0.1	2.7
金属	3.3	1.5	32.7	0.8	0.2	5.6
紙・段ボール	0.8	1.0	3.0	0.2	0.2	0.5
ゴム	8.0	31.5	30.5	1.9	4.8	5.2
木 (木材等)	100.0	355.0	70.0	23.4	53.8	12.0
電化製品・電子機器	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
人工物合計	428.0	660.4	582.3	100	100	100

人工物の大分類別の組成 (容量)






項目	個数 (個)			個数 (%)		
	R2	R3	R4	R2	R3	R4
プラスチック	550	881	709	85.3	94.9	85.3
天然繊維・革	9	0	0	1.4	0.0	0.0
ガラス・陶器	19	4	23	2.9	0.4	2.8
金属	12	6	35	1.9	0.6	4.2
紙・段ボール	6	1	9	0.9	0.1	1.1
ゴム	10	19	28	1.6	2.0	3.4
木 (木材等)	39	17	27	6.0	1.8	3.2
電化製品・電子機器	0	0	0	0.0	0.0	0.0
その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
人工物合計	645	928	831	100	100	100

人工物の大分類別の組成 (個数)

2-2 三河湾形原周辺地点

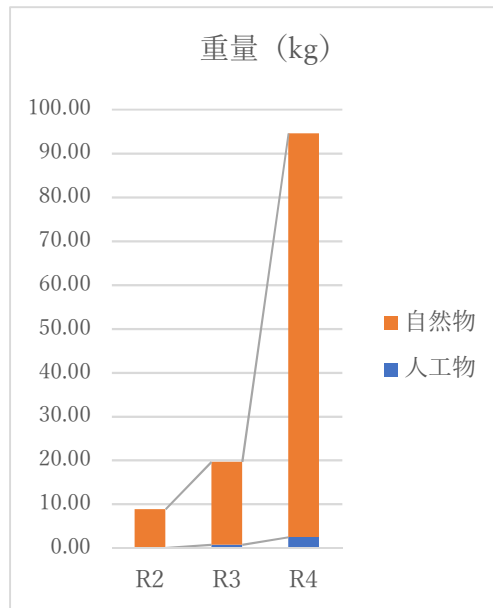
三河湾形原周辺地点の令和2年度～令和4年度の調査地点の回収前の様子は以下のとおり。

	
<p>令和2年度 作業前 調査地点西側から (2020年10月29日撮影 蒲郡市春日浦海岸)</p>	<p>令和3年度 作業前 調査地点西側から (2021年12月8日撮影 蒲郡市春日浦海岸)</p>
	
<p>令和4年度 作業前 調査地点西側から (2022年11月16日撮影 蒲郡市春日浦海岸)</p>	

三河湾形原周辺地点の漂着ごみの状況

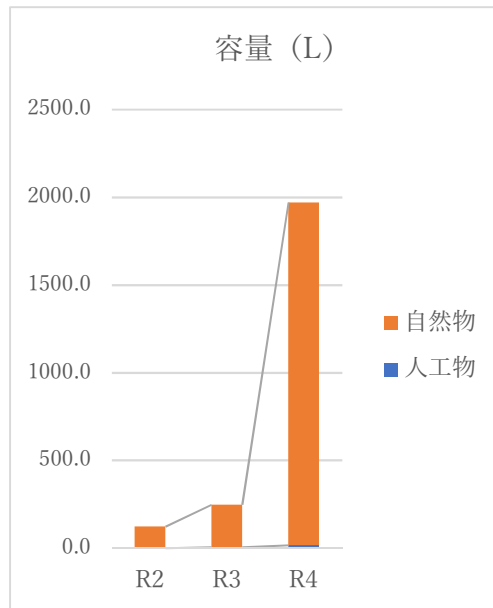
令和4年度の結果と過年度の結果を比較すると、2分類別組成の人工物及び自然物の、重量、容量で増加がみられ、個数では減少がみられた。2分類別の組成比では、3か年度ともに重量、容量では自然物の比率が高く、個数では人工物の比率が高い傾向が見られた。

人工物の大分類別の組成では、プラスチックの項目で重量、容量、個数ですべての分類で令和4年度の結果に減少が見られた。令和2、3年度ともプラスチックの比率が重量、容量、個数で90%以上を占める傾向が見られたが、令和4年度では、プラスチックが個数で70%以上を占めるが、木（木材等）が重量、容量で80%程度を占める結果であった。



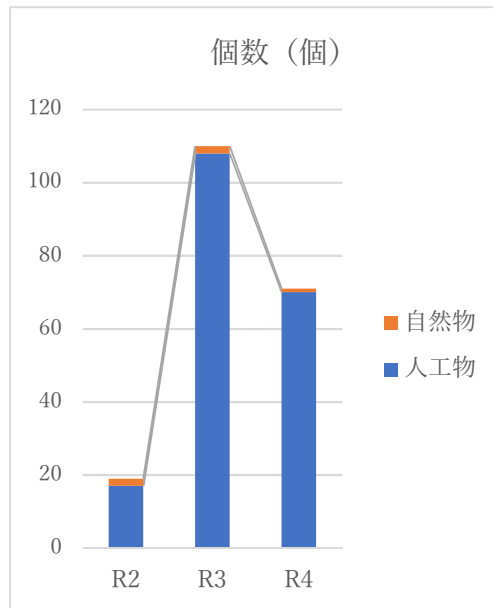
項目	重量 (kg)			重量 (%)		
	R2	R3	R4	R2	R3	R4
人工物	0.04	0.74	2.48	0.5	3.8	2.6
自然物	8.81	18.92	92.08	99.5	96.2	97.4
合計	8.85	19.66	94.56	100	100	100

2分類別の組成 (重量)



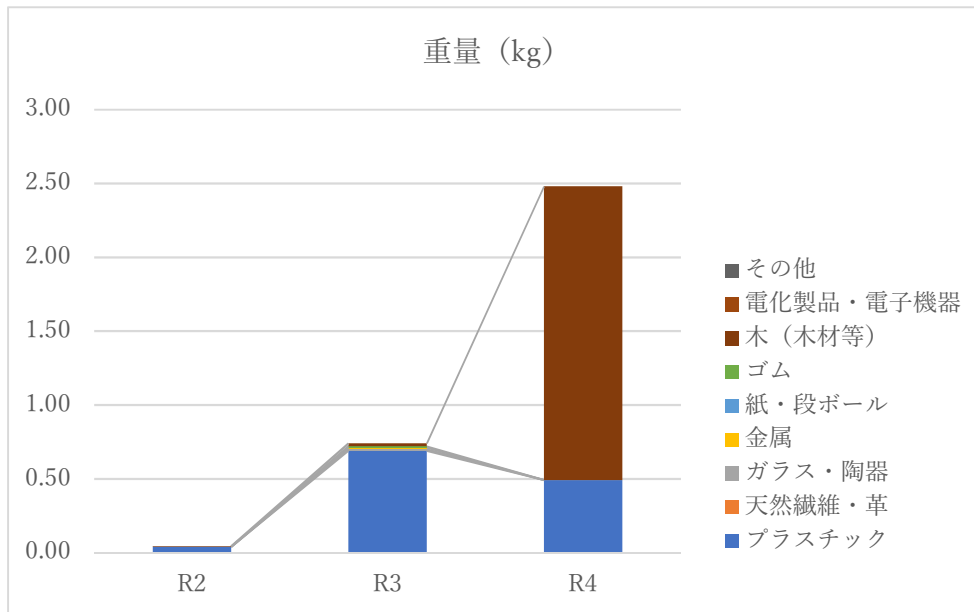
項目	容量 (L)			容量 (%)		
	R2	R3	R4	R2	R3	R4
人工物	0.3	3.8	16.6	0.3	1.5	0.8
自然物	122.0	243.5	1,954.6	99.7	98.5	99.2
合計	122.3	247.3	1,971.2	100	100	100

2分類別の組成 (容量)



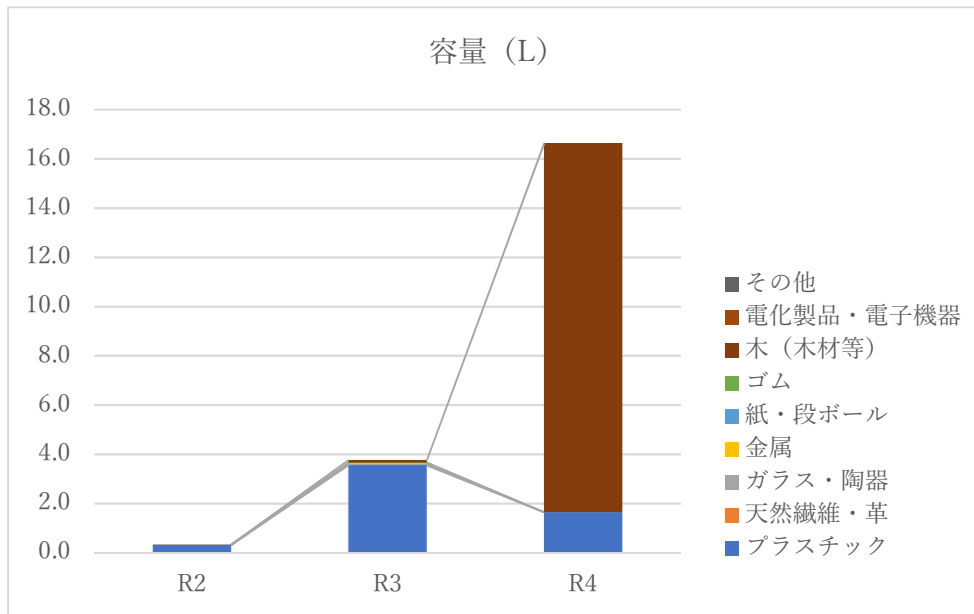
項目	個数 (個)			個数 (%)		
	R2	R3	R4	R2	R3	R4
人工物	17	108	70	89.5	98.2	98.6
自然物	2	2	1	10.5	1.8	1.4
合計	19	110	71	100	100	100

2分類別の組成 (個数)



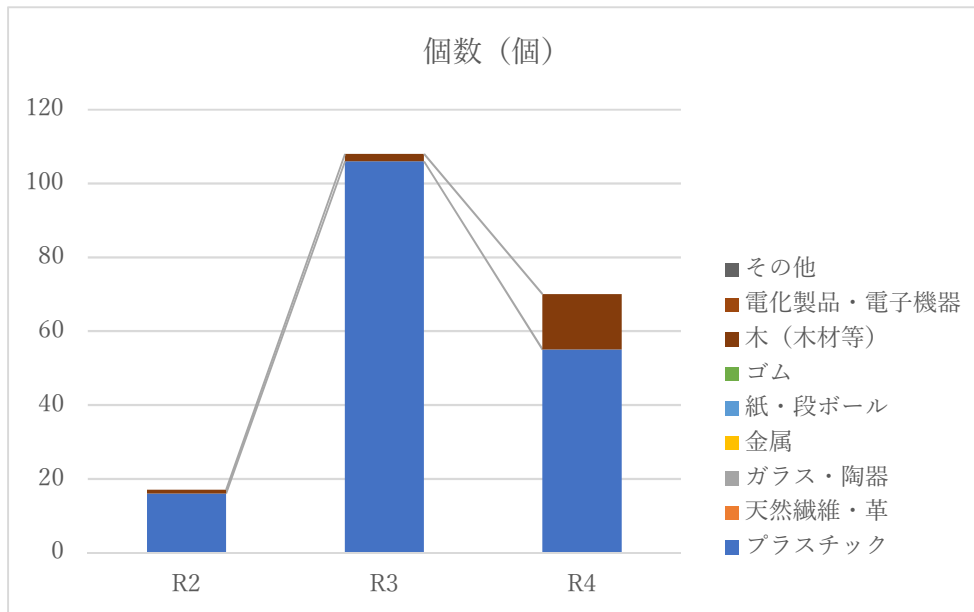
項目	重量 (kg)			重量 (%)		
	R2	R3	R4	R2	R3	R4
プラスチック	0.04	0.69	0.49	90.8	93.2	19.8
天然繊維・革	0.00	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0
ガラス・陶器	0.00	0.01	0.00	0.0	1.4	0.0
金属	0.00	0.01	0.00	0.0	1.4	0.0
紙・段ボール	0.00	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0
ゴム	0.00	0.01	0.00	0.0	1.4	0.0
木 (木材等)	0.00	0.02	1.99	9.2	2.7	80.2
電化製品・電子機器	0.00	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0
その他	0.00	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0
人工物合計	0.04	0.74	2.48	100	100	100

人工物の大分類別の組成 (重量)



項目	容量 (L)			容量 (%)		
	R2	R3	R4	R2	R3	R4
プラスチック	0.3	3.6	1.6	97.0	94.4	9.9
天然繊維・革	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ガラス・陶器	0.0	0.1	0.0	0.0	1.3	0.0
金属	0.0	0.1	0.0	0.0	1.3	0.0
紙・段ボール	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ゴム	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	0.0
木 (木材等)	0.0	0.1	15.0	3.0	2.7	90.1
電化製品・電子機器	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
人工物合計	0.3	3.8	16.6	100	100	100

人工物の大分類別の組成 (容量)






項目	個数 (個)			個数 (%)		
	R2	R3	R4	R2	R3	R4
プラスチック	16	106	55	94.1	98.1	78.6
天然繊維・革	0	0	0	0.0	0.0	0.0
ガラス・陶器	0	0	0	0.0	0.0	0.0
金属	0	0	0	0.0	0.0	0.0
紙・段ボール	0	0	0	0.0	0.0	0.0
ゴム	0	0	0	0.0	0.0	0.0
木 (木材等)	1	2	15	5.9	1.9	21.4
電化製品・電子機器	0	0	0	0.0	0.0	0.0
その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
人工物合計	17	108	70	100	100	100

人工物の大分類別の組成 (個数)

2-3 遠州灘西七根周辺地点

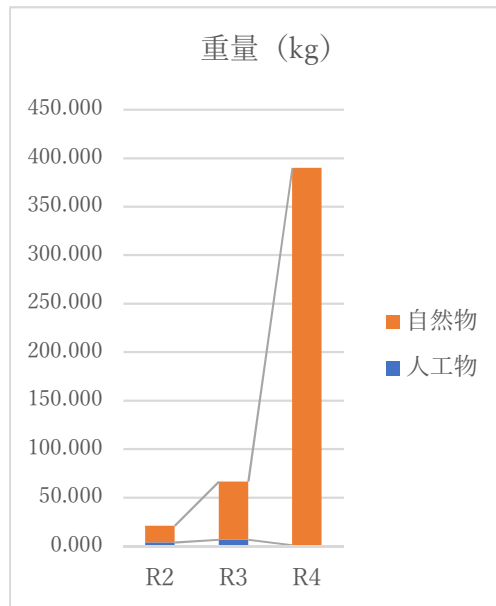
遠州灘西七根周辺地点の令和2年度～令和4年度の調査地点の回収前の様子は以下のとおり。

	
<p>令和2年度 作業前 調査地点西側から (2021年1月20日撮影 豊橋市西七根海岸)</p>	<p>令和3年度 作業前 調査地点西側から (2021年11月9日撮影 豊橋市西七根海岸)</p>
	
<p>令和4年度 作業前 調査地点西側から (2022年12月22日撮影 豊橋市高塚海岸)</p>	

遠州灘西七根周辺地点の漂着ごみの状況

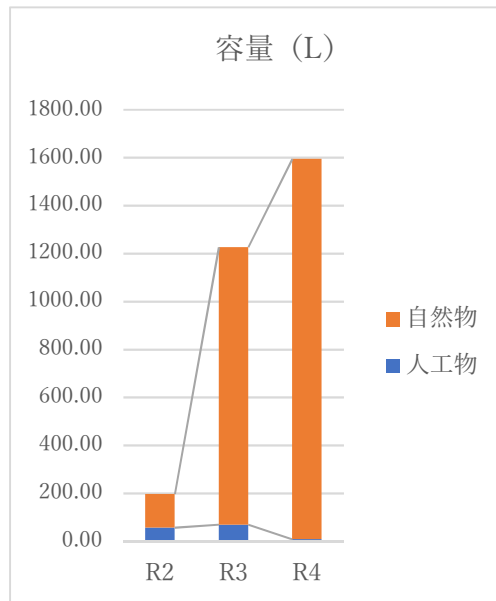
令和4年度の結果と過年度の結果を比較すると、2分類別組成の自然物の、重量、容量、個数で増加がみられ、人工物では減少がみられた。2分類別の組成比では、3か年度ともに重量、容量では自然物の比率が高く、個数では人工物の比率が高い傾向が見られた。令和4年度の自然物増加については、令和4年9月末に調査地点が位置する豊橋市内の表浜海岸に、台風15号の影響とみられる大量の流木が漂着した影響によるものと考えられ、10月下旬に豊橋市により調査地点を含めた周辺の流木が撤去されたが、その後に再び海域に漂流していた流木が漂着したものである。また、表浜海岸には調査を実施した12月22日においても調査地点より離れた未清掃の場所には大量の流木が漂着したままの状況であったことから、表浜海岸に漂着した流木が再漂流し、海岸に再漂着した可能性も想定される。

人工物の大分類別の組成では、全ての分類で重量、容量、個数において令和4年度の結果に減少が見られた。人工物の大分類別の組成比では、3か年ともプラスチックの比率が重量、容量、個数で50%以上を占める傾向が見られた。



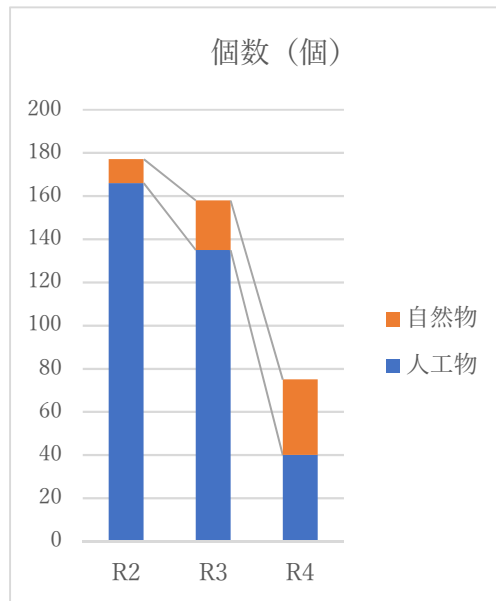
項目	重量 (kg)			重量 (%)		
	R2	R3	R4	R2	R3	R4
人工物	3.71	6.46	0.75	17.9	9.7	0.2
自然物	17.05	60.05	389.10	82.1	90.3	99.8
合計	20.76	66.51	389.85	100	100	100

2 分類別の組成 (重量)



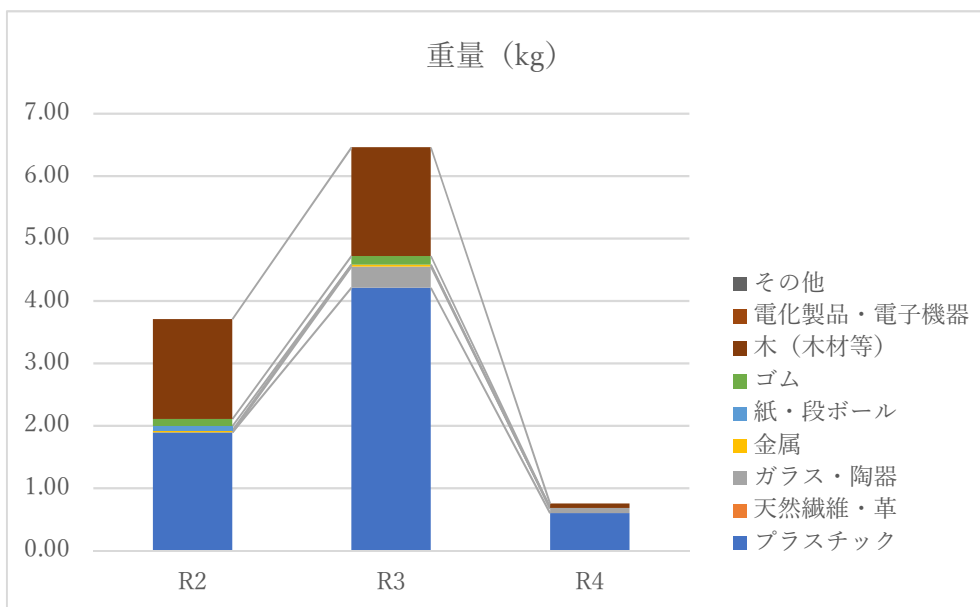
項目	容量 (L)			容量 (%)		
	R2	R3	R4	R2	R3	R4
人工物	57.0	69.7	9.1	28.9	5.7	0.6
自然物	140.0	1,156.9	1,586.1	71.1	94.3	99.4
合計	197.0	1,226.6	1,595.2	100	100	100

2 分類別の組成 (容量)



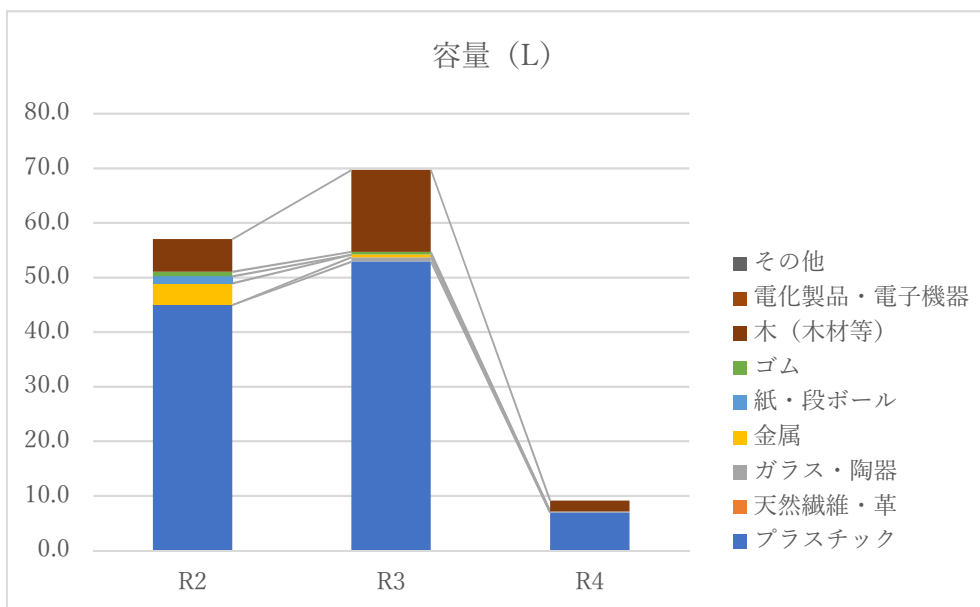
項目	個数 (個)			個数 (%)		
	R2	R3	R4	R2	R3	R4
人工物	166	135	40	93.8	85.4	53.3
自然物	11	23	35	6.2	14.6	46.7
合計	177	158	75	100	100	100

2分類別の組成 (個数)



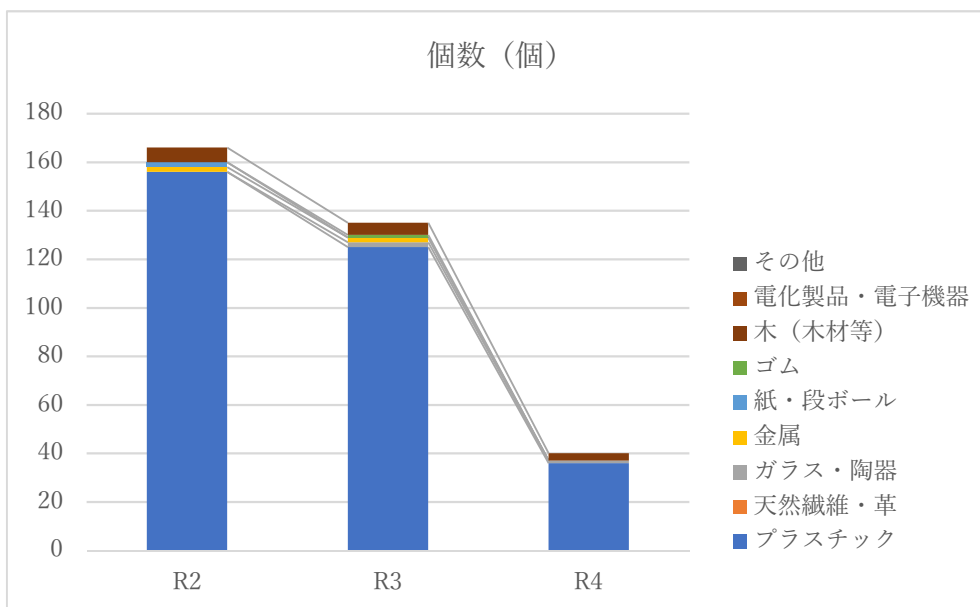
項目	重量 (kg)			重量 (%)		
	R2	R3	R4	R2	R3	R4
プラスチック	1.89	4.21	0.60	51.0	65.2	80.0
天然繊維・革	0.00	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0
ガラス・陶器	0.00	0.34	0.08	0.0	5.3	10.7
金属	0.03	0.03	0.00	0.9	0.5	0.0
紙・段ボール	0.07	0.00	0.00	1.9	0.0	0.0
ゴム	0.11	0.14	0.00	3.0	2.2	0.0
木 (木材等)	1.60	1.74	0.07	43.1	26.9	9.3
電化製品・電子機器	0.00	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0
その他	0.00	0.00	0.00	0.0	0.0	0.0
人工物合計	3.71	6.46	0.75	100	100	100

人工物の大分類別の組成 (重量)



項目	容量 (L)			容量 (%)		
	R2	R3	R4	R2	R3	R4
プラスチック	45.0	52.9	6.9	78.8	75.9	75.9
天然繊維・革	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
ガラス・陶器	0.0	0.8	0.2	0.0	1.1	2.2
金属	4.0	0.5	0.0	7.0	0.7	0.0
紙・段ボール	1.3	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0
ゴム	0.8	0.5	0.0	1.4	0.7	0.0
木 (木材等)	6.0	15.0	2.0	10.5	21.5	21.9
電化製品・電子機器	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
人工物合計	57.0	69.7	9.1	100	100	100

人工物の大分類別の組成 (容量)



項目	個数 (個)			個数 (%)		
	R2	R3	R4	R2	R3	R4
プラスチック	156	125	36	94.0	92.6	90.0
天然繊維・革	0	0	0	0.0	0.0	0.0
ガラス・陶器	0	2	1	0.0	1.5	2.5
金属	2	2	0	1.2	1.5	0.0
紙・段ボール	2	0	0	1.2	0.0	0.0
ゴム	0	1	0	0.0	0.7	0.0
木 (木材等)	6	5	3	3.6	3.7	7.5
電化製品・電子機器	0	0	0	0.0	0.0	0.0
その他	0	0	0	0.0	0.0	0.0
人工物合計	166	135	40	100	100	100

人工物の大分類別の組成 (個数)